

第3回 東京造形大学大学院『Hachioji 影絵プロジェクト』の活動を調査!







ミライのBLINKA研究室

ミライの文化を創り出す、次世代の芸術家たち

Hachioji 影絵プロジェクトとは

八王子にある東京造形大学の大学院に開講されているプロジェクト授業です。このプロジェクトは八王子とゆかりのある伝統芸能『影絵』を研究対象とし、現代的な光と影によるアート表現の可能性を追求しています。さらに、地域社会と連携を図りながら、さまざまな場所で活動を行っています。

影絵(写し絵)ってどんなもの??





風呂と呼ばれる映写機を使ってスクリーンに絵を映し出します。今はLEDですが、昔はランプの火を使っていました!

フィルムを挟んだ種板(たねいた)と呼ばれるものに絵を描き込み、風呂にセッティング! 写真をフィルムに印刷したりすることも。

スクリーンの後ろから、光を点灯した風呂で絵を投影し、ナレーションや音楽と共に物語を上演します。

参加している学生さんにお話を聞きました!



柳田雅人さん
(大学院2年生)

●プロジェクトで、面白いと感じることは?

公演をつくるにあたり、必ず開催する地域にちなんだ伝説などを物語に織り込んでいます。地域の人にとって当たり前のことで、外からの視点加わることで新たな魅力を引き出せますよね。実際に昨年の公演で、地域の方がものすごく喜んでくれたのが印象的でした。また、参加している学生たちのクリエイティブな着眼点が本当に面白いです。特に、今回のクラスは中国からの留学生がほとんどで、文化の違いも含めて、新たな発想で進化していくんじゃないかと思っています。



眞 沁雨さん
(大学院1年生)

●参加する中で、苦労したことは?

例えば、フラグの絵を映す時に、どうやったら本物の動きに近く見えるか、考えながら動きを調整していくのがとても難しいです。また、稽古中に先生が動きの指示を舞台の専門用語を使って出してくれるんですが、私も含め中国からの留学生が多いので、その場でぱっと理解するのが大変なこともあります。「今、こう言ってたよ」「こういう意味なんじゃない?」と、スクリーンの裏で中国語で助け合っています。



専門の力を持ち寄ってつくりあげる、総合芸術…!

教室に何と、それぞれ専門領域の異なる大学院生の皆さんが集まっていました。公演に向けて、映画が専門のメンバーがシナリオを担当したり、アニメーションや絵画のメンバーがキャラクターデザインを、はたまた造形教育のメンバーは子ども向けワークショップのアイデアを出したり…皆がお互いに信頼し合いながら、一つの作品を全員で作り上げている姿がとても印象的でした。物語はとても親しみやすいストーリーになっていますが、実はその根底には『環境問題』『ジェンダー』といった、それぞれの学生たちが関心を持っている現代社会へのメッセージが込められているとのこと。プロジェクトチームが一体となって深く表現を追及している様子は本当にスゴイの一言…! これからも、若いクリエイターたちの手で影絵(写し絵)の可能性がさらに広がっていくのが楽しみです!

先生方に聞く、『影絵プロジェクト』のこれから

●これから『影絵プロジェクト』でやってみたいことは?

まだ“夢”の段階ではありますが、いつか中国やインドネシアの影絵など、シルエット表現をしているアーティストたちが一堂に会する『影絵サミット』が実現できたら…と考えています。ゆくゆくは、海外公演も視野に入りたいですね!

●学生たちがかわかることによって生まれる新しさ、変化は?

伝統というと、『その姿を守り、保存する』というイメージが付きものですが、それだけではやがて消えていってしまう。影絵プロジェクトでは、伝統を学びながらも常に新しい世代の新たな発想が加わり、今の社会の中で何が表現できるか、ということに挑戦し続けています。それこそが、伝統を生きたものとして次の世代に引き継いでいく方法なのではないかと思っています。

(左から)
中野 純先生、加藤亜依先生、
首藤幹夫先生



財団設立20周年記念

南大沢クラシックシリーズ Vol.1&Vol.2

出演者インタビュー

平成8年に開館して以来、南大沢地域で長く親しまれている文化施設『八王子市南大沢文化会館』の主ホールで、令和4年度から新しいコンサートシリーズがスタート! 出演者の千住真理子さん、荘村清志さんにコメントをいただきました! 南大沢文化会館の主ホールは、円形の天井が特徴的な、最大500席の多目的ホール。シックな雰囲気と、アコースティックリサイタルや室内楽にピッタリなホールの響きを活かして、クラシック音楽界を牽引する音楽家たちの演奏をご堪能いただけるコンサートをお届けします。

Pick Up

ピックアップ

11/20 (日)

Vol.1 千住真理子 Mariko Senju

●今回のプログラムの観どころ・聴きどころは?

フランク生誕200年に当たる今年、新たに発見したフランクの魅力を、聴衆の皆様と共に味わいたくてソナタを選曲しました。このソナタをフランクは自身が尊敬していたイザイに捧げましたが、今回はそのイザイの作品も皆様に聴いていただきながら、そのほか『序奏とロンド・カプリチオーソ』や『チャルダッシュ』など名曲の数々を散りばめました!

●千住さんの20年来の愛器として知られているヴァイオリン、ストラディヴァリウス『デュランティ』ですが、長年付き合ってきた今だからこそ、期待できることは?

ストラディヴァリウス『デュランティ』との運命的な出会いから早20年とは、自分でも驚きます。最初の数年間あんなに苦労したデュランティも、今は我が身体の一部のようです。心の芯から音が出るとすれば、恐らく今のデュランティの音色になるのだらうと感じます。まさに我が心のデュランティの、生の音色を聴いていただける時間になると思います。



千住真理子 © Kiyotaka Saito(SCOPE)

2/26 (日)

Vol.2 荘村清志 Kiyoshi Shomura

●今回のプログラムの観どころ・聴きどころと、荘村さんにとってのギターの魅力とは?

今回のギターソロのプログラムでは、ギターという楽器を使っていかに歌うことが出来るかがテーマになっています。ギターは撥弦楽器なので、音が出た瞬間から消えていってしまっていますが、まるで歌っているかのように演奏することが大切な曲ばかりで構成されています。また、ギターは弱音で演奏した時にいかに表現力豊かに弾くことが出来るかが、とても大切になってきます。ピアノのように大きな音は出せませんが、逆に弱音がギターの魅力だと信じています。

●カウンターテナーの藤木大地さんとの共演、お二人ならではの表現とは?

第二部ではカウンターテナーの藤木大地さんとのデュオをお届けしますが、藤木さんの魅力もまた、繊細なピアノニッシモにあります。ピアノニッシモで歌ったり演奏したりするためには、内面的に豊かな表現力が無いと、とても不可能です。その意味で藤木さんは悲しいピアノニッシモ、喜びに溢れたピアノニッシモなど、多彩な表現力を持っていますので、ギターとの相性がとてもいいと感じます。二人の表現力がうまく融合する音楽をお楽しみいただきたいと思います。



荘村清志 © 良知賀津也

公演情報

【Vol.1&Vol.2 共通】 14:30開演 南大沢文化会館主ホール 全席指定 ※未就学児入場不可
【料金】友の会:3,600円 一般:4,000円 ユース券:2,000円(25歳以下、要身分証)
Vol.1&2セット券:7,000円 ※初回お申込み時、窓口・電話予約(TEL:042-621-3005)のみ

Vol.1 千住真理子 ヴァイオリン・リサイタル

【出演】千住真理子(ヴァイオリン)、山岡 智(ピアノ)
【曲目】アメイジング・グレイス(黒人霊歌)、
ヴァイオリン・ソナタ(フランク)、
序奏とロンド・カプリチオーソ(サン＝サーンス)、
チャルダッシュ(モンティ) ほか



山岡 智(ピアノ)

Vol.2 荘村清志 ギター・リサイタル with 藤木大地

【出演】荘村清志(ギター)、
ゲスト:藤木大地(カウンターテナー)
【曲目】アルハンブラの想い出(タレガ)〈ギターソロ〉、
禁じられた遊びより『愛のロマンス』〈ギターソロ〉、
オンブラ・マイ・フ(ヘンデル)、
あの素晴らしい愛をもう一度(加藤和彦) ほか



藤木大地
(カウンターテナー)
©hiromasa